

を観光施設等で上映することなどを考えていく。また、観光マスター資格を持つ協力隊員と農業体験ツアー等の企画について協議していく。

問 観光計画には、文化伝習館に有名な講師を招いての文化体験や農業体験を盛り込むなど、集客を図るための現実的な計画を策定してほしい。

答 文化伝習館の体験型観光は現在も喜ばれている。今後においても、ふるさと公園の他の施設との連携を含め、観光のリピーターが増えていくよう検討していく。

問 ふるさと公園を中心とした観光振興を唱える中であって、中心街に目を向けると、食事や宴会のできる店も減っている。中心街での起業支援等をどのように考えているのか。

答 本町は、中小企業を応援する条例や融資制度など、他のまちと比べても支援策は充実している。今後、も商工会と連携しながら、支援策のPRに努める。

問 都市と農村交流事業への負担金が削減されているが、今後の展望は。

答 国の補助事業が終了したので、今後は観光資源発掘事業の中で、農業体験を盛り込んだ企画を計画していきたい。

雪割り作業について

問 融雪期の雪割り作業にGPSを活用

用する計画はないのか。

答 現在はまだ検討段階にないが、将来的には必要になる可能性がある。と認識している。

道路の改築について

問 菊水団地内の道路改築の設計費が予算計上されているが、改築の内容は。

答 現在、両側に歩道があり、冬期間は道幅がかなり狭くなることから、改築に当たっては車道をできる限り広くする予定である。

問 道路改良事業は、年次のな計画に基づいて実施しているのか。

答 90路線の町道140kmを調査し、状態を4段階評価した上で、5か年程度を一区切りとして、改良工事の着手を計画していく。

石狩川の丘陵堤について

問 工事に向けた用地交渉の進捗状況は。依然として用地交渉は難航しているとのこと、昨年から進捗していない。

小中学校の教育について

問 学校経営にPTAや地域住民が参画する、いわゆる「コミュニティ・スクール」を導入しようとする意図は。

答 学校や家庭だけでなく、地域社会全体で子供を育てていくことが重要であるという観点から導入していきたい。

問 コミュニティ・スクール準備委員会

は、どのようなメンバーで構成される見込みか。

答 学校評議員のほか、青少年健全育成町民会議、安全・安心推進協会、子ども会育成者連絡協議会、PTAなどを見込んでいく。

問 中学生への英語検定受験料助成事業の実施目的は。また、英語検定は

全員が受けなければならぬのか。検定の受験は義務的なものではない。英語に力を入れていくことは本町の政策でもあり、英語力向上のための手法として実施する。

図書館への読書通帳システム導入について

問 自分の借りた本のタイトルを預金通帳のように記録できるという「読書通帳システム」を導入することだが、これは大人でも利用できるのか。また、何冊借りれば通帳が満杯になるのか。

答 希望すれば大人でも利用可能である。また、通帳は216冊借りれば満杯になる。

問 読書通帳システムを導入する目的

は。また、システム保守には毎年経費が必要と思われるが、その分新しい本を購入した方が読書の推進に繋がるのではないか。

答 道内で導入している2つの自治体で、こちらも図書館利用が増えた実績がある。借りた本が記録され

る楽しみで読書活動が推進されるほか、子供同士、家庭での対話につながるなどの2次的な効果にも期待している。

スポーツセンター

改修にあわせた芸術作品の展示について

問 スポーツセンターのロビーに、五十嵐威暢氏から寄贈される作品を設置することは評価するが、設置によって子ども達の動線が制限されたりすることがないように配慮してほしい。

答 寄贈される作品は、ロビーの利用者の動線を制限しない位置に展示される。

中央体育館の耐震性について

問 中央体育館の耐震性の面から安全といえるか。

答 耐震診断は行っていないが、かなり古い施設なので指摘のとおり耐震性に不安はある。現在、一定の利用ニーズに充てているが、安全面に対する検討が必要と認識している。

将来の税収について

問 人口減少を見据え、将来の税収額のシミュレーションはしているか。

答 特にしていない。人口予測はあるので、単純計算による概数の試算は可能だが、地方税法の改定に影響を受けるため正確な数値は算出できない。